

クルーズサマリー

1. 航海情報

(1) 航海番号： KS-21-13

(2) 使用船舶： 新青丸

(3) 航海名称

日本海対馬暖流域における学際的合同海洋観測Ⅱ：海洋構造の変化に対する化学・生物環境の応答

(4) 主席研究員

乙坂 重嘉（東京大学 大気海洋研究所）

(5) 研究代表者

S21-4 乙坂 重嘉（東京大学 大気海洋研究所）

(6) 研究課題名

S21-4 日本海対馬暖流域における学際的合同海洋観測Ⅱ：海洋構造の変化に対する化学・生物環境の応答

(7) 航海期間

2021/07/04 - 2021/07/14

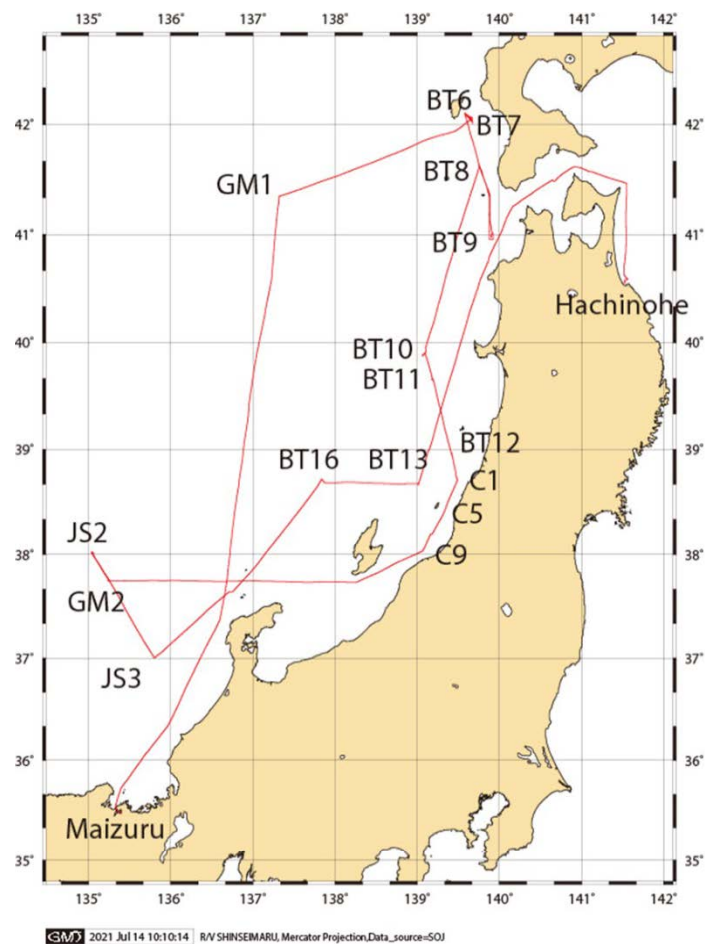
(8) 出港～帰港

舞鶴東港前島埠頭 1 号岸壁 - 八戸港八太郎 2 号ふ頭 I 岸壁

(9) 調査海域

日本海

(10) 航跡図



2. 調査概要

本研究は、全球的な環境変動が海洋における化学・生物過程に与える影響を予測するため、日本海をモデル海域とした総合的な観測研究の一環として実施した。具体的な調査項目として、(1) 日本海における数十年スケールでの環境変動傾向の検出、(2) 暖水渦のメソ・サブメソ構造と物質フラックスの連動性把握、(3) 環境変化に伴う底生魚類の応答評価、(4) 放射性核種の挙動追跡、を実施した。

各項目において、海水、底生生物、懸濁粒子、沈降粒子、海底堆積物等を採取し、採取した試料中の溶存酸素や二酸化炭素の溶存気体成分を船上の実験室で分析した。環境 DNA、微量金属元素、放射性核種等の各種成分は、船上で前処理の後、陸上施設で計測する。これらの分析結果と、CTD や係留系観測によって得られた塩分・水温、流向・流速、濁度等の物理学的項目の調査結果を踏まえて解析し、日本海における最新の物質循環像を把握する。さ

らに、一連の観測で得られる結果を過去 30 年間の観測結果と照合し、近年の環境変化に伴う日本海での物質循環への影響を明らかにする。